



SDGs

未来都市  
とよた

豊田市  
企画政策部 未来都市推進課

1. 豊田市の概要

2. 外部機関等の評価

3. S D G s 未来都市になるまでの経過

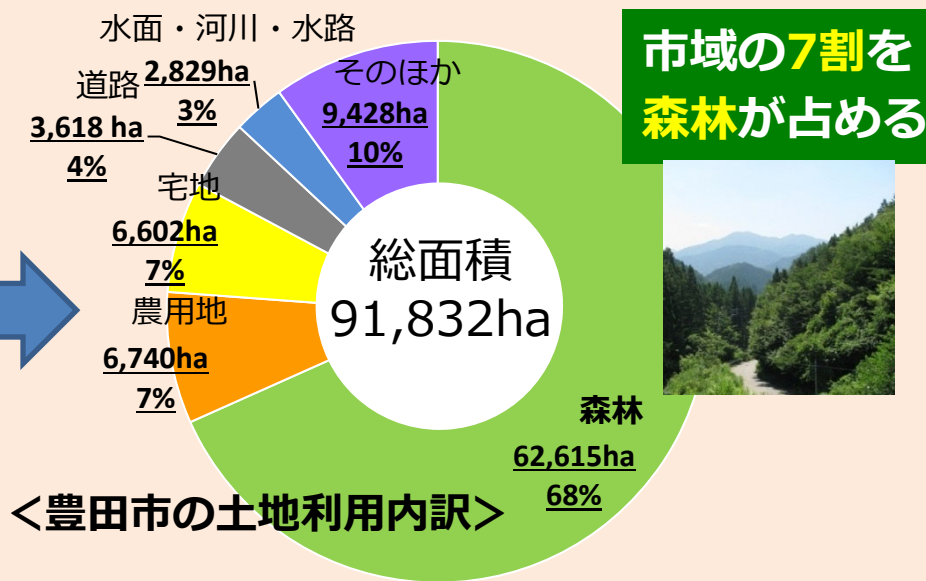
4. S D G s 未来都市とよた 重点分野

5. グッドプラクティス

6. これからの展開

# 1. 豊田市の概要「日本の縮図 都市と中山間地の共存」

平成17年に6町村と合併



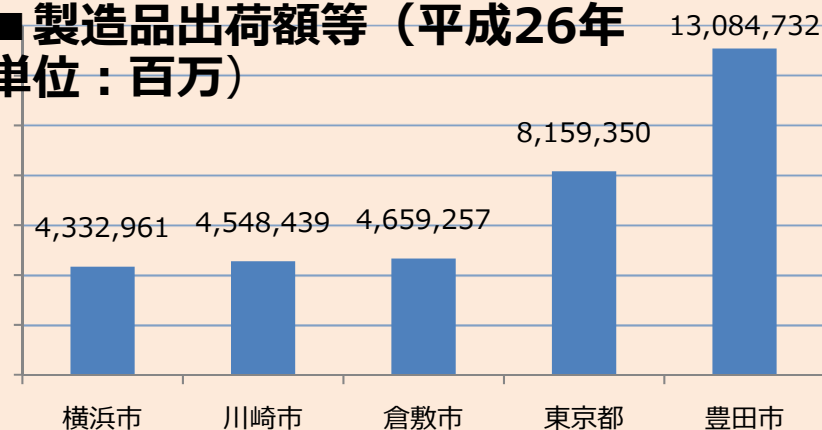
ものづくりのまち



国内有数の産業規模

豊田市の製造品出荷額等は、  
2002年から連続して全国一位

■製造品出荷額等（平成26年  
単位：百万）



# 豊田市の強み ～先端技術が創出されるまち～

ものづくり創造拠点SENTAN



「クルマのまち」「ものづくりのまち」「環境先進都市」

豊田スタジアム



ものづくり産業集積地



FCV



トヨタ自動車本社



PHV



スカイホール豊田



とよたエコフルタウン

H31.4.27 SDGs 情報発信拠点として  
リニューアルオープン



ものづくり学習





# 豊田市の強み ～自然豊かで原点回帰できるまち～

## ■ 都市近郊部にも豊かな自然環境



## ■ 豊かな自然・農産物・特産物も豊富



空き家情報バンクで中山間地へ移住



豊田市を舞台にした映画



農山村で多様な体験交流



# トピックス（2020年）

## 2020年世界ラリー選手権「Rally Japan」日本開催決定

11月9日(下山)、10日(稲武)に、「Central Rally」を実施

※「Central Rally」は、来年の本番のためのテストイベント

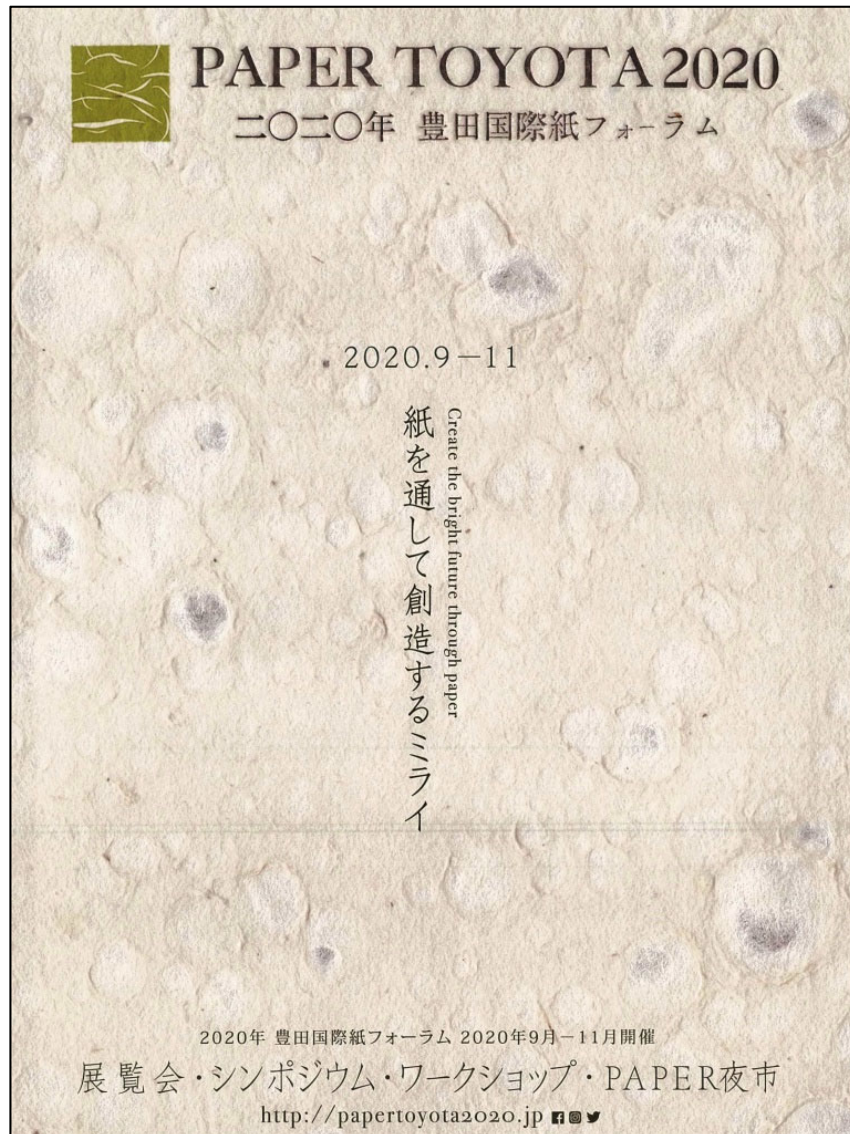


SNSで「セントラルラリー」と検索すると、多くの動画・写真が見つかります！



# トピックス（2020年）

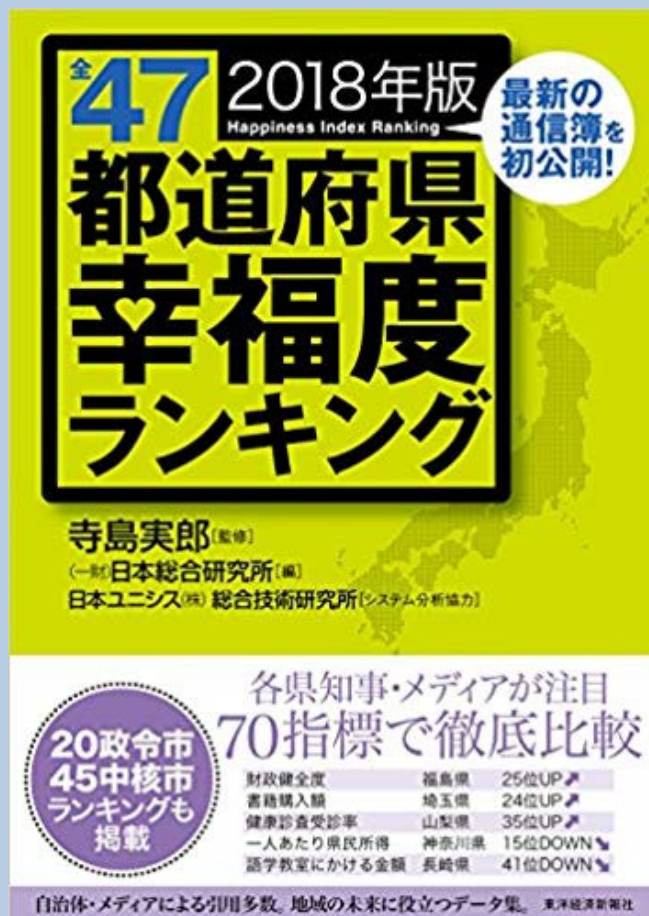
## 豊田国際紙フォーラム（2020年9月開催）



四季桜(小原地区)

## 2. 外部機関等の評価 その1

### 幸福度ランキング2018年版 中核市総合1位



#### 【総合ランキング】

**1位 豊田市**

2位 富山市

3位 長野市

4位 柏市

5位 岡崎市

6位 高崎市

7位 宇都宮市

8位 金沢市

9位 前橋市

10位 久留米市

・

44位 ・

45位 ・

出典：全47都道府県幸福度ランキング2018年版

(一財)日本総合研究所編 寺島実郎監修 東洋経済新報社



# 外部機関等の評価

## その2

### 「SDGs先進度」総合ランキング 総合4位



出典：日経グローバル  
日本経済新聞社

#### 【総合ランキング】

1位 京都市  
2位 北九州市  
3位 宇都宮市  
4位 豊田市

658位

| 持続可能な都市<br>京都市がトップ |            | 本紙調査  |
|--------------------|------------|-------|
| 持続可能な都市ランキング       |            |       |
| 総合順位               | 総合計        |       |
| 1                  | 京都市(京都府)   | 70.37 |
| 2                  | 北九州市(福岡県)  | 70.13 |
| 3                  | 宇都宮市(栃木県)  | 68.82 |
| 4                  | 豊田市(愛知県)   | 68.57 |
| 5                  | 岡山市(岡山県)   | 68.53 |
| 6                  | 相模原市(神奈川県) | 68.50 |
| 7                  | さいたま市(埼玉県) | 68.33 |
| 8                  | 板橋区(東京都)   | 68.23 |
| 9                  | 堺市(大阪府)    | 67.88 |
| 10                 | 名古屋市(愛知県)  | 67.83 |

日本経済新聞は国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の観点から全国の815市を評価し、ランキングをまとめた。首位は京都市で、公共交通を優先させる政策でエネルギー消費量を削減していることなどが評価された。2位は市内企業と組み、環境技術の輸出に注力する北九州市だった。(関連記事5面、「日経グローバル」355号に詳報)

2018年10月11日、環境対策や交通政策など

都市のサステナビリティ(持続可能性)を意識した取り組みについて調査を実施。658市区から回答を得た。公表データと合わせて、「経済」「社会」「環境」の3分野ごとに評価した。京都市は温暖化対策やごみ減量に先駆的に取り組む。四条通の歩道幅や、郊外に車を止めて公共交通を利用してもらう

パークアンドライドにも注力している。公共交通を優先した街づくりを進めたことが中心部の交通量を削減につながり、高評価を得た。

出典：平成31年1月11日日経新聞

### 3 SDGs 未来都市になるまでの経過

人間と環境が様々な方法で融合した社会。

心地よい毎日のために無駄を抑え、そして無理なく実行できること。

「ミライのフツー」をつくる、とよたの歩み。

#### 将来都市像

つながる つくる

暮らし楽しむまち・とよた

人と人、人と地域、自然とのつながりを深め、認め合い、生かし合う中で、  
多様な価値や可能性をつくりだし、暮らしを楽しむことができるまちをめざします。

2011年12月22日指定

地域活性化総合特別区域〈次世代エネルギー・モビリティ創造特区〉

平成23年～32年度

2010年4月8日選定

次世代エネルギー・社会システム実証地域

平成22年～26年度

2018年6月15日選定

SDGs未来都市

平成30年～

2009年1月23日選定 環境モデル都市

平成21年～

2009  
(平成21年)

2010  
(平成22年)

2011  
(平成23年)

2012  
2013

2014  
2015

2016  
2017

2018  
(平成30年)

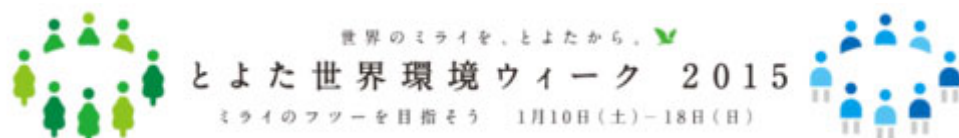
2030





# SDGs関連 これまでの取組

2015年1月「持続可能な都市に関するハイレベルシンポジウム  
～人と環境と技術の融合～」



国連経済社会局(UNDESA)、  
国連地域開発センター(UNCRD)、豊田市  
23か国、7国際機関から250名参加  
(うち海外参加者は106名)  
⇒3月「豊田宣言」国連より公表



2018年2月「SDGs推進国際シンポジウム2018inとよた  
～「つながる」でつくる持続可能な社会～」

国連地域開発センター(UNCRD)、豊田市  
4か国、180名参加



17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



関連イベント  
「Think SDGs」  
@エコフルタウン

# 2030年 あるべき姿

“つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた”の実現

(第8次豊田市総合計画 豊田市の将来都市像)

## 豊田市のSDGs重点分野

- ・エネルギー
- ・モビリティ
- ・ウェルネス



豊田市におけるSDGs推進 2大プラットフォーム





つながる社会  
TOYOTA CITY

## 豊田市つながる社会実証推進協議会

<都市部>

**設立日** 2016年10月12日

**会員**

73団体（2019年12月末現在）

会長：豊田市長

**協議会の特徴**

- ① AI・IoT等の先進技術を活用し、社会課題の解決を図る
- ② 民産金学官の連携
- ③ 国内外への横展開
- ④ 地方創生推進交付金の活用
- ⑤ 総合特区の推進母体
- ⑥ 地方版 IoT推進ラボの推進母体

豊田市未来都市研究会  
(2018.1~11月)

中部電力、トヨタ自動車  
名古屋大学、三菱UFJ銀行  
豊田市 計5者

50年後の将来都市像と今後10年間の取組の  
方向性をビジョンとして描く

ビジョン  
提示





## おいでん・さんそんセンター

**ひと・地域(活動主体)をつなぐことで、  
都市と山村双方の課題解決を目指す取組を 展開**  
**都市と山村が支え合う中で、さまざまな暮らしが選択できるまちを実現**

主な取組

- ①いなかとまちの交流コーディネート
- ②いなか暮らし総合窓口
- ③「支え合い社会」の研究・実践

実績

- ・コーディネート実績(H25～H28年度) 137件
- ・移住実績(H25～H28年度) 80世帯・207人
- ・「いなかとまちのくるま座ミーティング」開催  
(H25～H28年度) 参加者 延べ450人

表彰等

- ・過疎地域自立活性化優良事例(H29年度受賞)
- ・「とよた里山猪肉カレー」  
(H30ディスカバー農山漁村(むら)の宝選定)



## 4. SDGs 未来都市とよた 重点分野（エネルギー）

# エネルギー



ミライのフツ－をつくろう



未来都市とよた

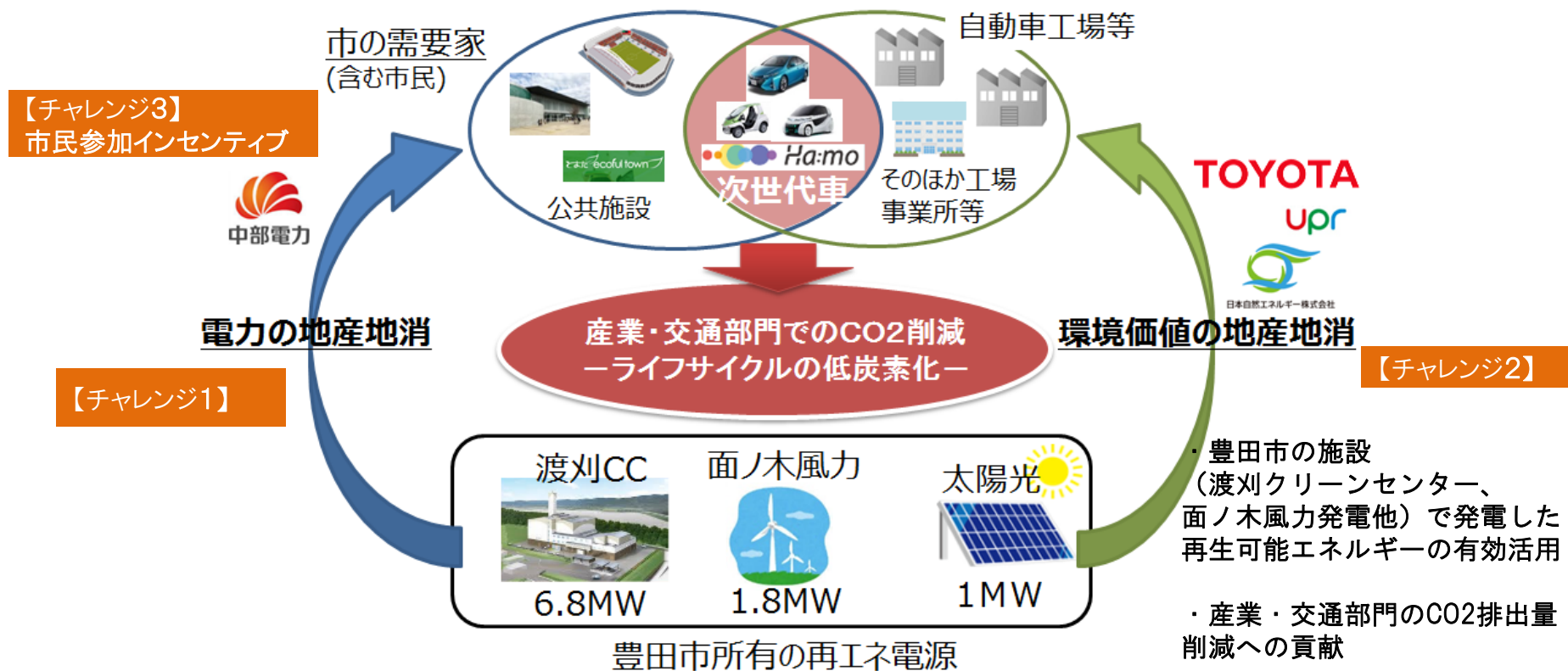
# エネルギー関連実証事業

実証事業総数：31件のうち、エネルギー関連は9件

|   | 実証テーマ                     | 参画会員                                         |
|---|---------------------------|----------------------------------------------|
| 1 | 山村地域等における課題解決に向けた地域サービス事業 | 三河の山里課題解決ファーム、中部電力                           |
| 2 | 新型超小型普通充電器                | 三井物産、ジゴワッツ                                   |
| 3 | <u>SDGsとよた再エネチャレンジ</u>    | 中部電力、トヨタ自動車、日本自然エネルギー、ユーピーアール                |
| 4 | V2Gアグリゲーター                | 豊田通商、中部電力                                    |
| 5 | <u>VPP</u>                | 中部電力、トヨタ自動車、トヨタエナジーソリューションズ、デンソー、東邦ガス、アイシン精機 |
| 6 | 蓄熱輸送体                     | トヨタ自動車、中部電力、東邦ガス                             |
| 7 | 小水力発電                     | 豊田高専、小島プレス                                   |
| 8 | 下水熱利用                     | 積水化学                                         |
| 9 | 水素利活用                     | トヨタ自動車、中部電力、東邦ガス、東芝                          |

# 「SDGsとよた再エネチャレンジ」事業イメージ

- ① 豊田市つながる社会実証推進協議会の実証として、  
中部電力、トヨタ自動車、日本自然エネルギー、UPR、豊田市が協業
- ② 2019年4月～2022年3月までの間に、3つのプロジェクトを一体的に展開
- ③ ラグビーW杯2019などを通じて国内外に取組を発信、横展開へとつないでいく

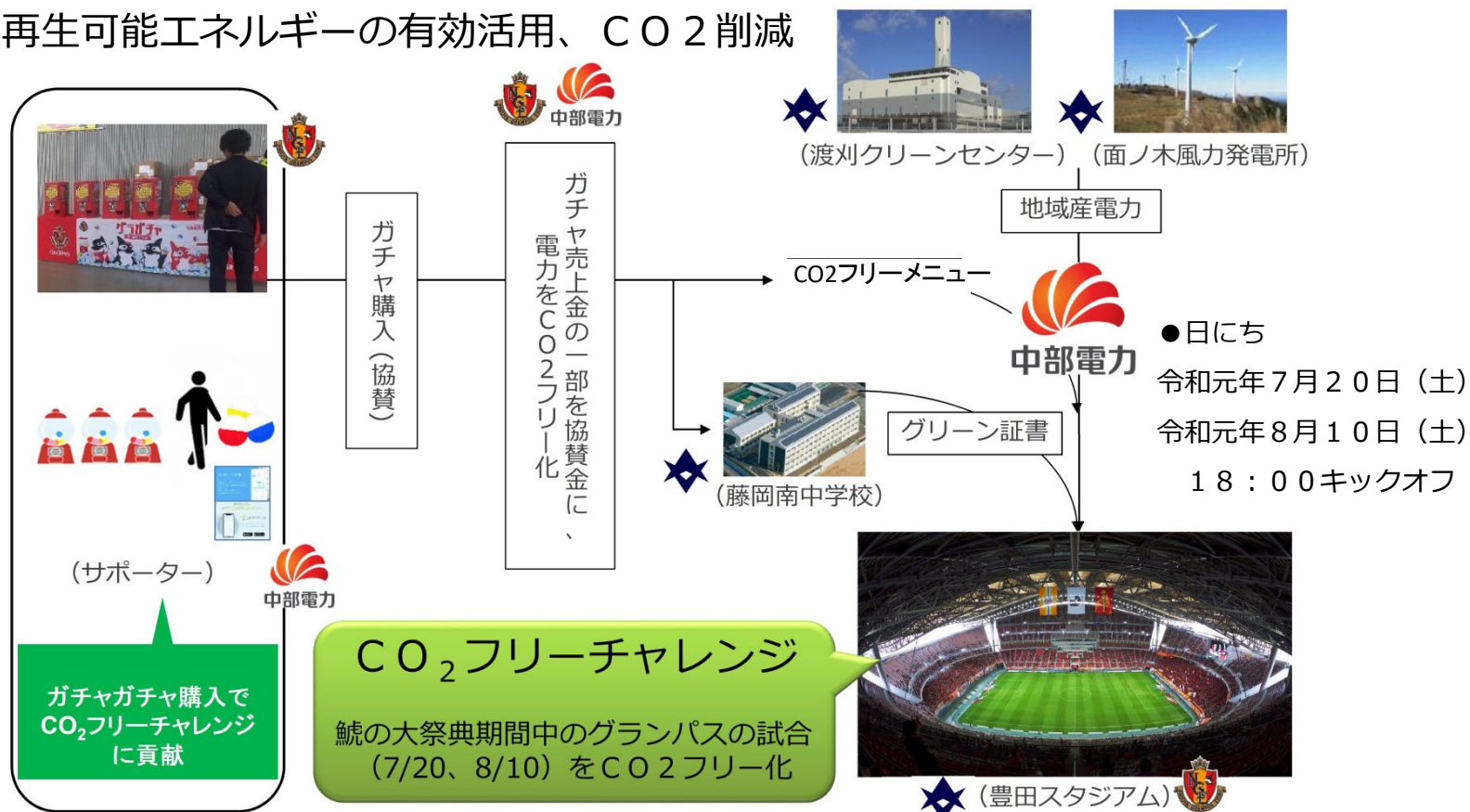




# 鯨の大祭典グランパス 豊田スタジアムの試合でCO2フリーチャレンジ ～SDGsとよた再エネチャレンジ第1弾～

## ●目的

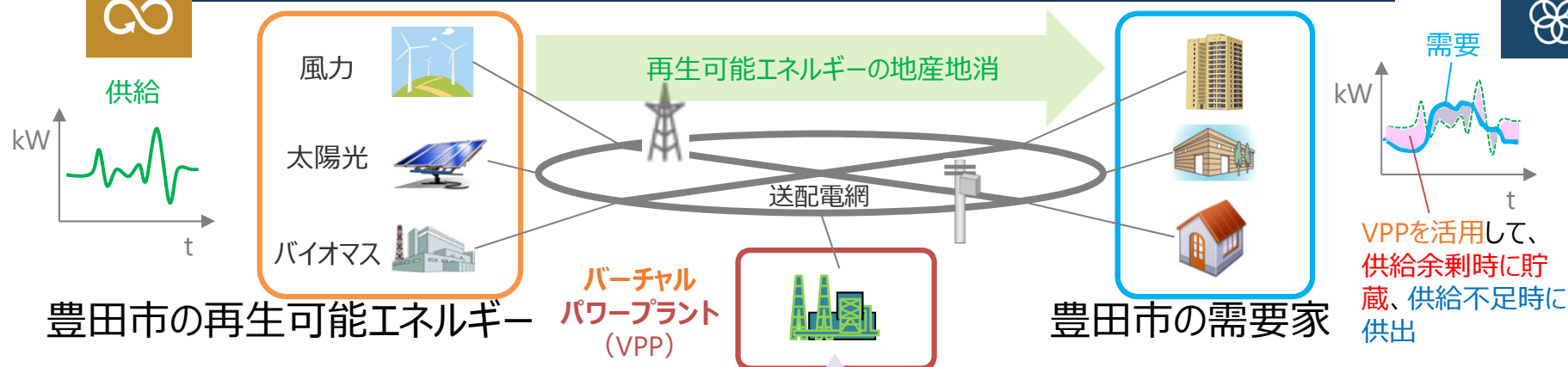
豊田市産の再生可能エネルギーの有効活用、CO2削減



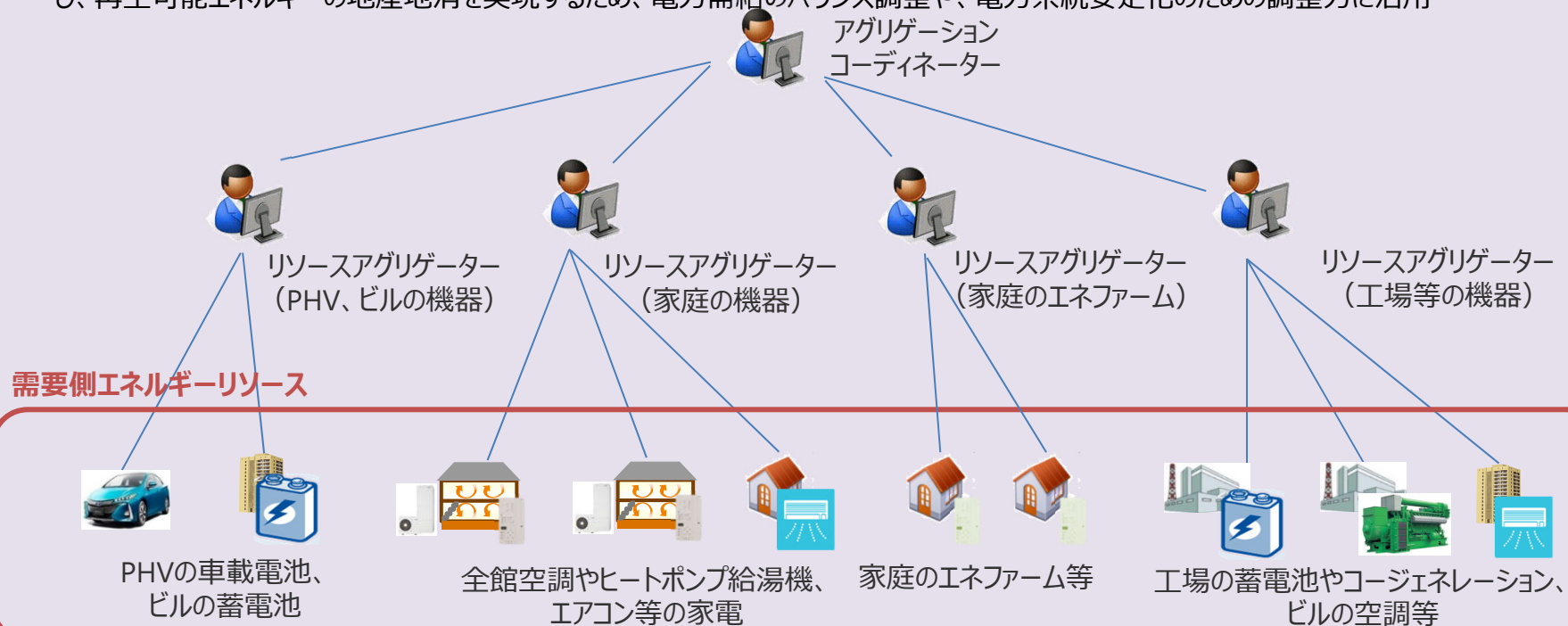
## ●SDGsとよた再エネチャレンジでの位置付け

- ・豊田スタジアムには、渡刈クリーンセンター及び面ノ木風力発電所で発電した「地産地消電力」を通年供給(チャレンジ1)
- ・豊田市藤岡南中学校の太陽光発電設備から生み出した「グリーン電力証書」や中部電力のCO2フリーメニューを適用して、豊田スタジアムに供給される地産地消電力をCO2フリー化(チャレンジ2)
- ・サポーターの皆様の協力を得てCO2フリーの試合を実現(チャレンジ3)

# 豊田市VPPプロジェクト



電力系統につながる様々な需要側エネルギーリソースを、あたかもひとつの発電所のように制御する「バーチャルパワープラント」を構築し、再生可能エネルギーの地産地消を実現するため、電力需給のバランス調整や、電力系統安定化のための調整力に活用



# SDGs 未来都市とよた 重点分野（モビリティ）

## モビリティ



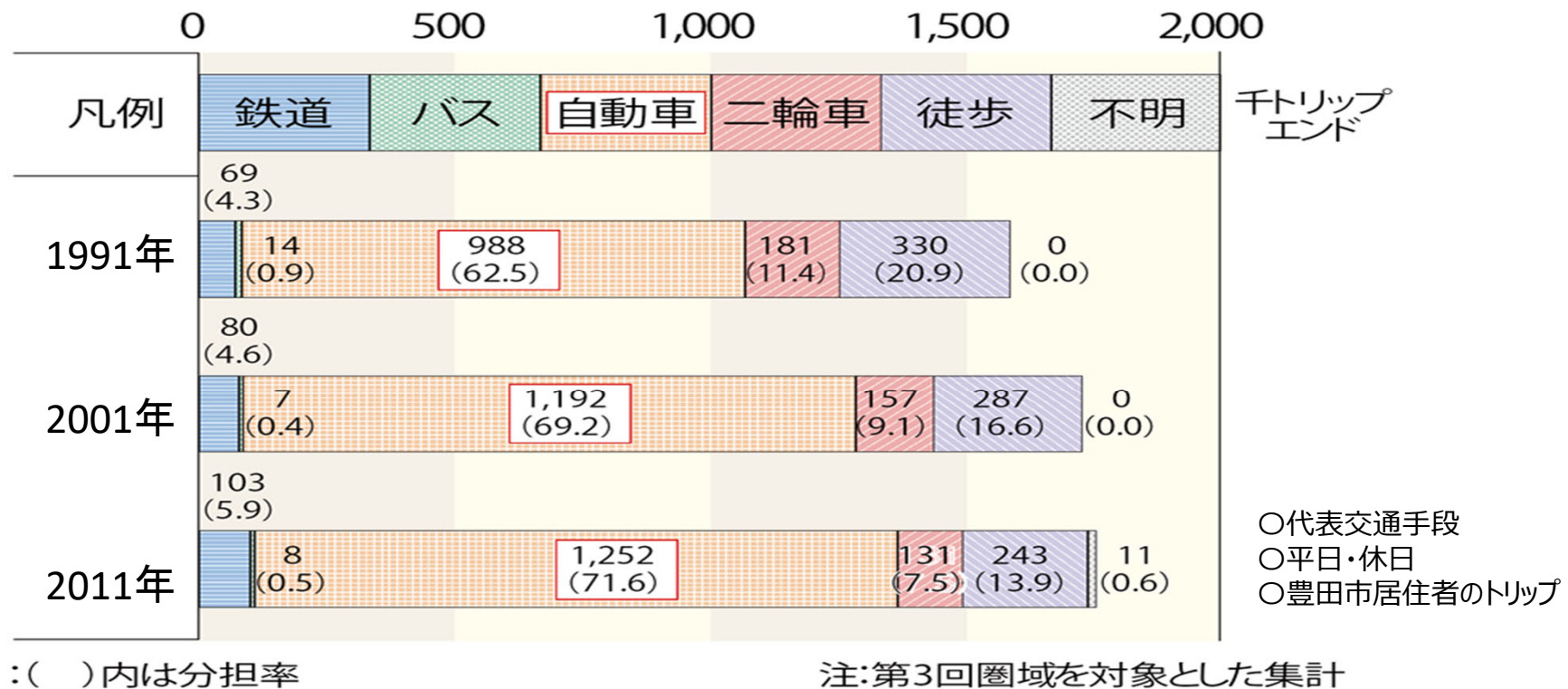
ミライのフツ－をつくろう



未来都市とよた



# 豊田市交通の現状・課題



## 自動車トリップ数の推移(豊田市発生集中)

- 自動車分担率が増加傾向にあり、7割を超えている。
- 今後も、さらに自動車分担率が増加する見込み。
- 免許保有率は都市圏平均より高く、特に、高齢者（70歳以上）の保有率が約80%と高い。

### (課題)

このまま過度な自動車依存社会が続き、公共交通等の利便性向上を行わないと、将来的に高齢者を始めとした移動困難者の増加等が懸念される。

資料：総合交通体系調査（豊田市パーソントリップ調査）〔2011年（H23年）調査〕

# 豊田市 SDGs × モビリティ

- 低炭素交通システム（シェアリング） Ha:mo 【トヨタ自動車】
- ヒューマノイドロボットによるインフラ協調実証 【東京大学】
- 山間地でのゆっくり自動運転 【名古屋大学】
- コネクティッドカー活用による道路保守点検 【トヨタ自動車】
- MONETのプラットフォームを活用したオンデマンドバス 【MONET Technologies】



■ 超小型電動モビリティ



■ ヒューマノイドロボットの開発



■ パーソナルモビリティ



■ 水素ステーション



■ FCバス（SORA）

■ FCV（MIRAI）

■ オンデマンドバス



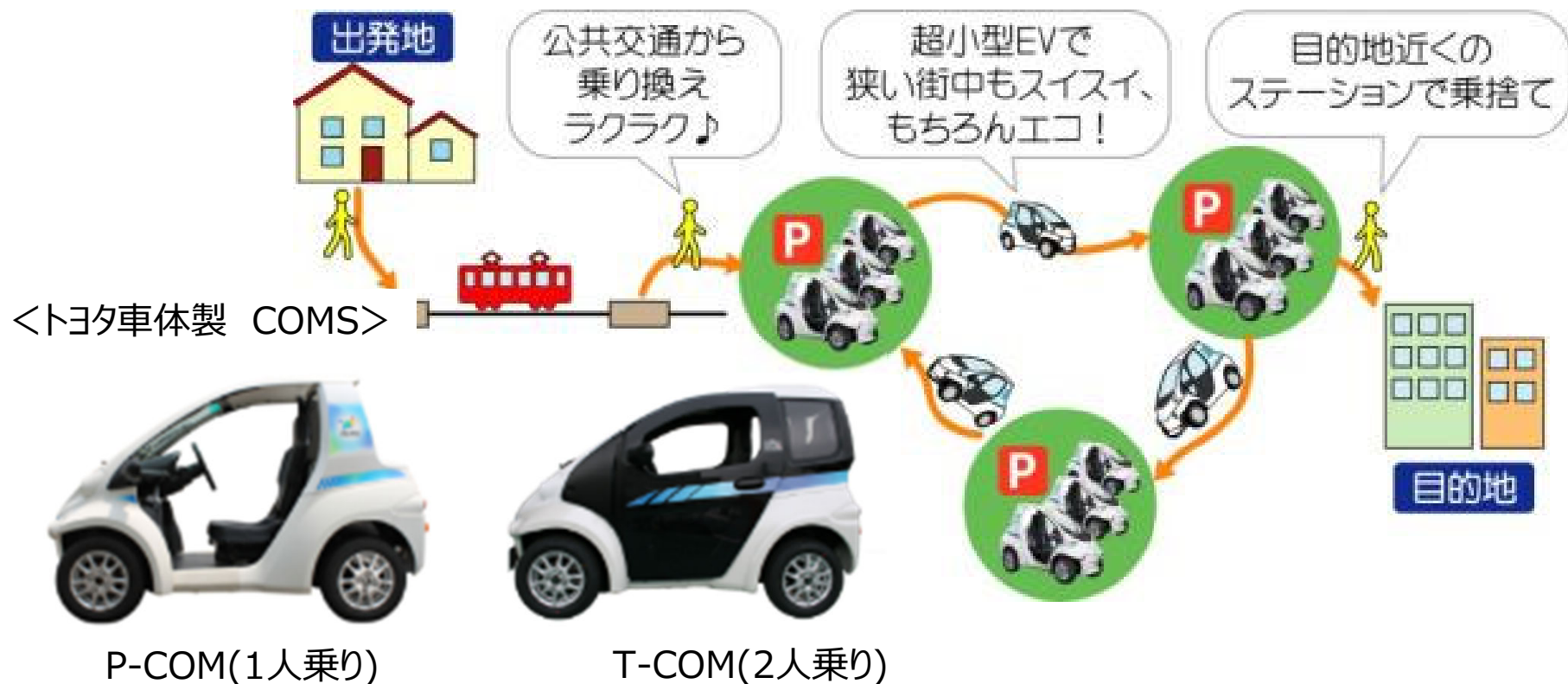


# これまでの取組(シェアリングシステム)



2012年10月～

「次世代エネルギー社会システム実証事業」として、民間企業（トヨタ自動車、ヤマハ発動機）、豊田市の共働により、新しい都市交通システム 通称Ha:moの実証運用



2017年度～ Ha:mo RIDE事業の実運用

民間企業による実運用化及び新たな活用の検討

車両COMS109台、ステーション65箇所、会員6,333名（2019.10月末時点）



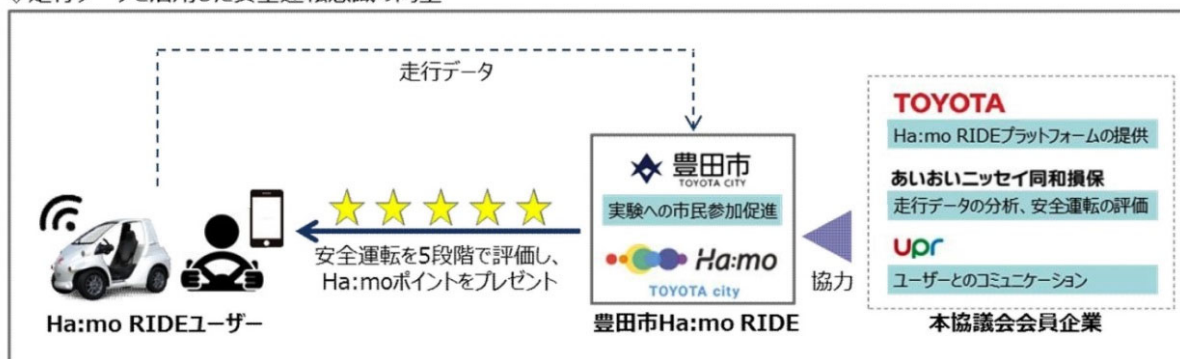
# 新たな実証 Ha:mo RIDEの走行データ活用

2019年 9月～10月

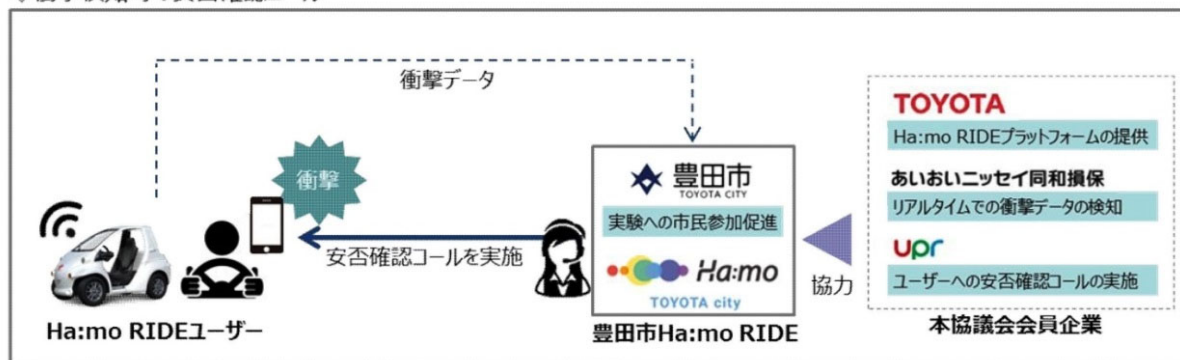
## Ha:mo RIDEの走行データ活用による利用者の安全運転意識向上・事故発生時の安心感提供の実現性を検証

- 関係者 豊田市、トヨタ自動車株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 ユーピーアール株式会社
- 内 容
  - ・走行データを活用して、安全運転を5段階で評価。評価に応じ次回利用料金への充当、とよたエコポイント
  - ・車両が大きな衝撃（自力走行が困難と思われる程度の衝撃）を検知すると自動的に自動通報受信デスクに通知。登録された利用者の電話番号に運営会社から「Ha:moあんしんコール」を実施

◇走行データを活用した安全運転意識の向上



◇衝撃検知時の安否確認コール



# これまでの取組(パーソナルモビリティ)

2010年度～ 実証実験開始  
歩行者と共存しながら回遊性を高めるためのツールとして  
パーソナルモビリティの活用及び普及促進を目指す

## <トヨタ自動車製 ウイングレット>

イベント活用



2018年～

3輪の立ち乗り型パーソナルモビリティ



中心市街地を観光する公道ツアー



## <トヨタ自動車製 歩行領域EV> 2019年8月～ 新たな超小型EVの実証実験

座り乗り型



車いす連結型

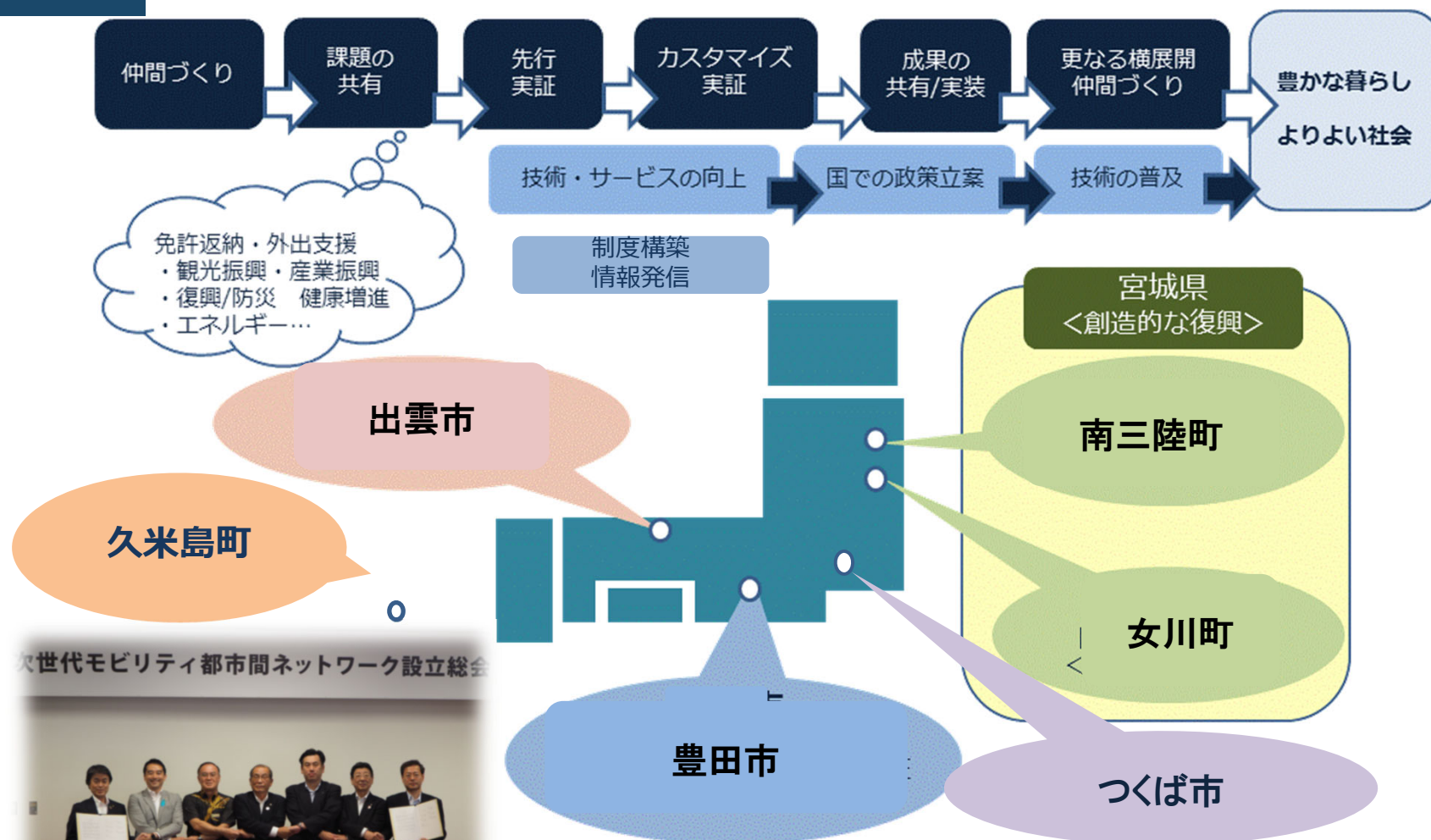


立ち乗り型



# 次世代モビリティ都市間ネットワーク

次世代モビリティを活用した社会課題解決を目指し、知見を共有する



次世代モビリティ都市間ネットワーク設立総会



<次世代モビリティ普及促進ネットワーク（2019.7月設立）>



# SDGs 未来都市とよた 重点分野（ウェルネス）

## ウェルネス



ミライのフツ－をつくろう



未来都市とよた

# 4 山村地域等における課題解決に向けた地域サービス事業

11 住み続けられるまちづくりを



“自立”と“つながり”で支え合い、豊かさを創造する地域

目指す姿

3 すべての人に健康と福祉を



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



山村地域等

豊田市つながる社会実証推進協議会

豊田市

(一社)三河の山里課題解決ファーム

中部電力（株）

実証に関する協定

設立・運営支援

（株）三河の山里  
コミュニティパワー

事業内容

- ・ **たすけあいプロジェクト** の継承、発展
- ・ 新たなサービスの開発、実証、展開
- ・ 対象地域での電力の小売事業
- ・ 再生可能エネルギーの普及促進

地域住民・企業等

地域サービス事業の実証

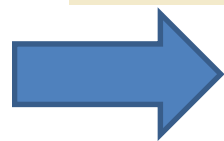
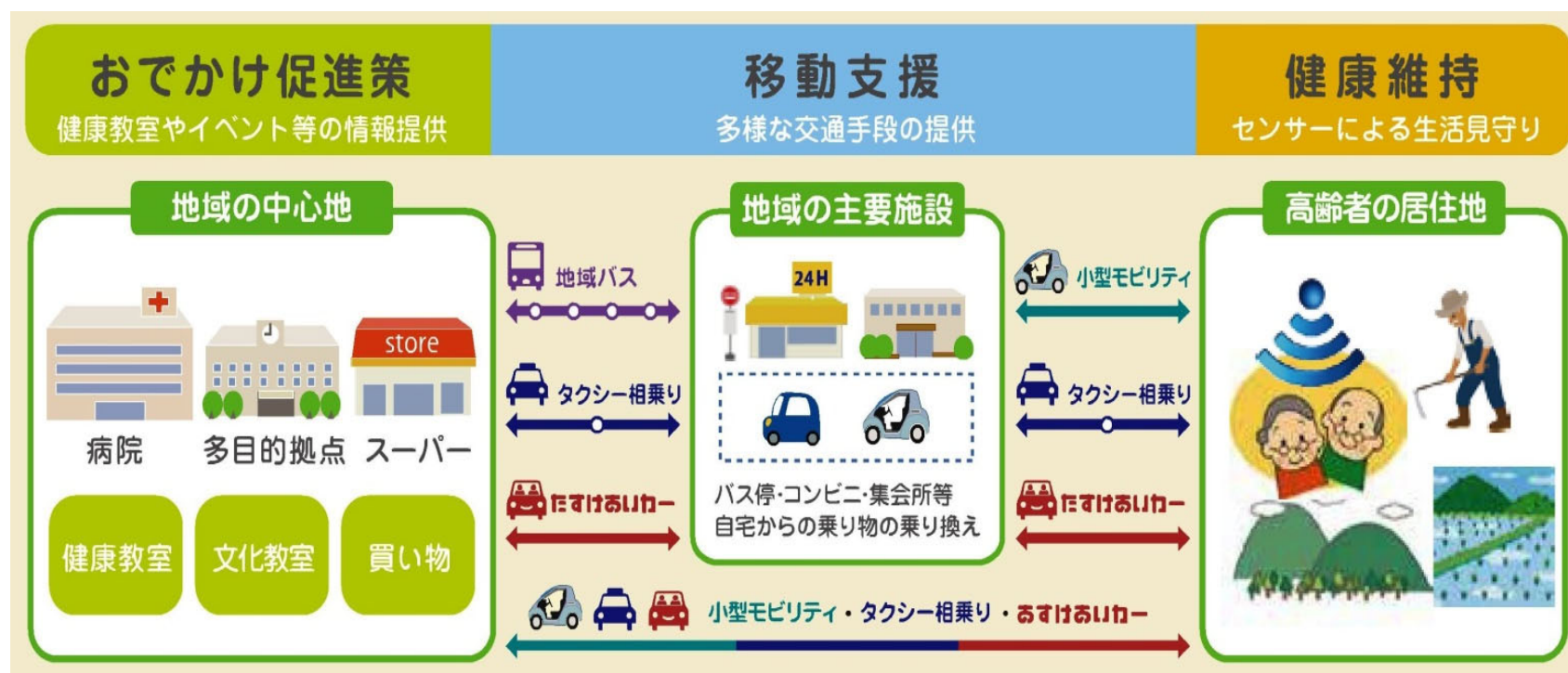
地域サービスの普及・定着に向けた

新たなサービスの開発、実証

## たすけあいプロジェクトとは・・・

高齢者を含むすべての人が、住み慣れた場所でその人らしく最後まで暮らすことができるよう、健康維持のための「見守り」「外出促進」とそれをつなぐ「移動」を総合的に支援

(名古屋大学・豊田市・足助病院・地域住民による共同実施)



- ・安全で自由な移動
- ・地域で安心して暮らすためのコミュニティの構築



# 5. グッドプラクティス

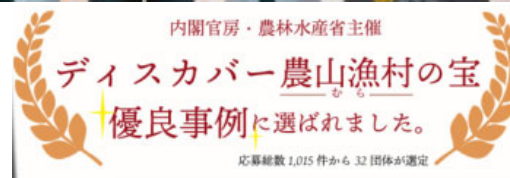
## とよた里山猪肉カレープロジェクト

(交流コーディネート事業)

社員の農業研修をきっかけに猪肉カレーを開発、発売。



「つながり」が新たな価値を生む



都市部と山村部のつながり支援

社会

企業と地域のパートナーシップ

経済

新たなビジネスの創出

環境

猪を食材に利用して食糧廃棄減



# 木製名札ケース プロジェクト

## 木製名札ケースプロジェクト



森林  
組合



あさひ製材  
協同組合



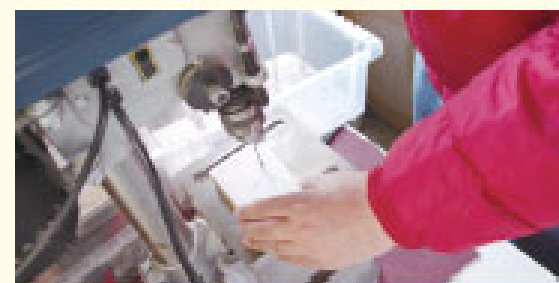
共同受注窓口  
(株)アルディ



デイサービス型  
地域活動支援センター  
「畦道(あぜみち)」



木工名人  
(市民)



豊田市産木材のブランドマーク  
「クラフトウッド」を刻印。

## GOAL



# 【災害に強いまち】とよたSAKURAプロジェクト



## ＜災害時の自助・共助の促進＞

災害時における次世代自動車の有用性を見せることで、防災意識の向上と次世代自動車の普及促進を図る



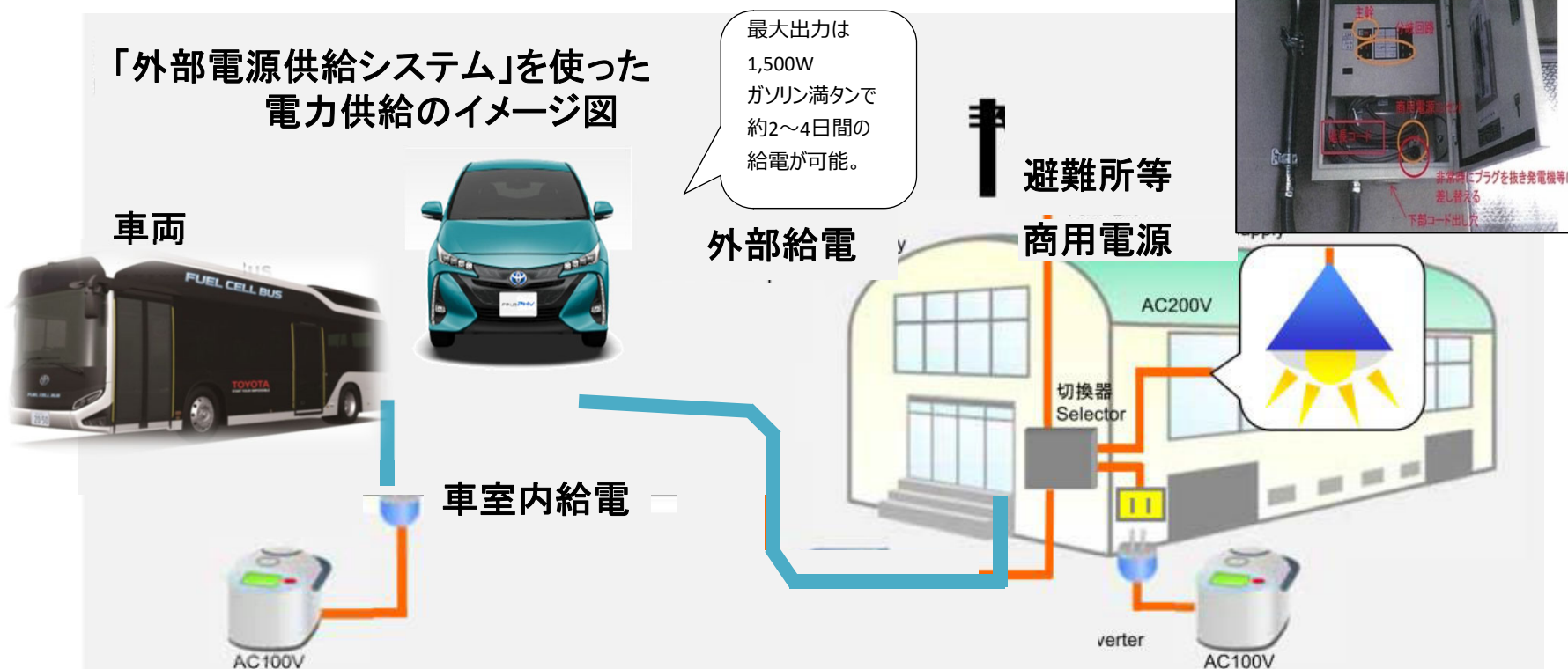
市内で開催される様々なイベントに参加、外部給電の実演を通じてPR  
H30年度は20回のイベント参加  
(防災キャンプ、選挙移動投票所への給電含む)



# 【避難所への給電設備の整備】

## ＜災害時の機能向上＞

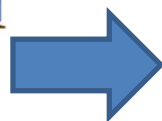
避難所への公用車等(PHV・FCV・FCバス・EV等)による外部電源供給及び給電設備の整備



大規模地震等の災害時に応急対応として、市内の避難所等において、プリウスやFCVやEVなどから電源供給を可能にする外部給電設備を設置するとともに、公用車等による外部電源供給の体制を整備し、実際の対応を想定した訓練を実施  
⇒ 25か所の避難所へ接続設備を設置予定（11か所設置済み）

## 6. これからの展開

# パートナーシップで分野横断



とよた   
**SDGs**   
パートナー

17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



**令和元年11月27日 始動！**





# 【学生による豊田市の地域課題解決チャレンジ】

17 パートナシップで  
目標を達成しよう



## 中京大学学生×内閣府×豊田市

### テーマ

- ① 中山間地の過疎化
- ② 在住外国人

- ・ 国籍を超えた第3の居場所
- ・ 中京大生が作る在住外国人と日本人のコミュニティ
- ・ 保見団地におけるゴミ問題、マナー問題
- ・ 中山間地域の農地保全の担い手不足の改善
- ・ 若手人材の不足から起こる伝統文化衰退の危機
- ・ 中山間地域の過疎化による空き家対策
- ・ 中山間地域の移動手段対諾





新たなコミュニティが生まれ相互につながり、  
豊かなまちがえられる。  
豊田市で生まれた好事例やグッドプラクティスは、  
日本中へと広がっていく。



**SDGs未来都市とよた**  
**世界共通目標「SDGs」**  
**を通じた国内外への貢献**



# 未来都市とよたが目指す“豊かな暮らし”

「モノ」づくりのまちから、  
「モノ・コト・ヒト」がつくるまちへ

